

令和5年度

# 安曇野市地域支え合い推進フォーラム

(今こそ考えよう これからのつながりづくり)



令和6年2月24日

細 萱 区 長  
細萱塾事務局長 細川博水

# 細萱区紹介

## 細萱区の位置



# 予想される細萱の地域課題と対策

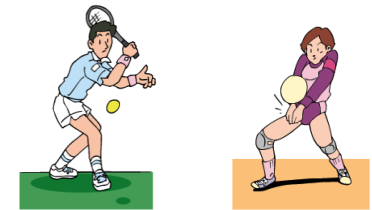
## 子育て

共働き世帯の増加と子育て、**介護に追われる世帯が増加**  
母子世帯等子育て環境の変化で**地域の教育力の強化の必要**  
子どもの虐待、自殺防止対策



## 健康づくり

運動不足による**成人病の増加**  
食品添加物等による**栄養障害の不安**  
有機低農薬作物の**地産地消実現**



## 高齢者の増加

**認知症予防**生活の定着  
一人暮らし高齢者の増加と**社交機会の減少による認知症予防機会の創出**

## 安全安心生活の実現

**危機管理体制の確立**  
防災、防犯はじめ近隣での支え合うしくみの構築  
犯罪の広域化、地方化に対応できる地域づくり

## 生活支援のしくみ

一人暮らし世帯の増加に伴う見守りをはじめとする**各種生活支援のしくみ**

## 環境保全

自然環境の保全  
住環境の保全

**河川の管理、農薬等薬品の管理、荒れ地ウリ駆除**  
**空き家、荒廃農地対策、鳥獣対策、公害**



# 「よい地域」であるための7つの条件

民俗研究家 結城登美雄さん

地元学

- ①よい仕事の間をつくること  
生きる土台である食をまかなう農林漁業を安定したものにする
- ②よい居住環境を整えること  
快適な居住環境整備、インフラ整備
- ③よい文化をつくり共有すること  
ともに楽しむ場をつくる
- ④よい学びの間をつくること  
地域で生きていくための知恵、身近な資源を生かすための技  
地域社会をともに支えるための学び
- ⑤よい仲間がいること  
最も大切な隣人、友人
- ⑥よい自然と風土を大切にすること  
自然と共に生きる
- ⑦よい行政があること  
行政がなくても美しく生きようとする村人がいて村は美しくなる

全員参加で地域づくり

# 細萱（町区）公民館役員OBによる「細萱塾」設立と経過

平成29~30年度細萱地区公民館役員が卒業するにあたって「さみしくなるな」との声が上がった。これを受けて「遊び場づくり」が発案された。

（平成元年度）設立準備

細萱区内に3地区公民館  
（細萱・新屋・殿村）

H31.3.29 「細萱塾（仮称）」開設準備会の第一回準備会（13名）

- ・ とりあえず始めてみる。
- ・ 郷土文化の伝承、子どもを育む
- ・ のんびり気楽に集える環境
- ・ いきいき健康体操 30人女性ばかり、楽しいが男性いない
- ・ 子どもの居場所づくりが必要
- ・ まずは家から出るところからがスタートか
- ・ 子どもの顔が見えない

H31.4.26 「細萱塾（仮称）」開設準備会の第二回準備会  
（事業アンケート結果報告）

## 細萱区民定例交流会イメージ

- ・ 定期的開催（月に1回からスタート）、第○土曜日午後の2時間程度
- ・ 参加費として100円~200円程度いただき喫茶（茶・菓子等）の提供（自慢持ち寄り可）
- ・ 参加者の希望（毎回アンケート調査）に応じ各種イベントを企画運営する
- ・ 公民館全館貸し切りでイベントエリア、談笑エリア、囲碁将棋等エリアを確保
- ・ 毎月「会報」を発行し開催報告と開催予告で区民に周知
- ・ 地域版「リーダーバンク（特技・スキルの提供）」事業運営
- ・ 世代間交流をはかり地域の絆づくりの機会にする（一人暮らしの解消・育児相談・痴呆予防・・・）

### くつろぐ

- ・ オレンジ・カフェ
- ・ サロン
- ・ 茶話会
- ・ 井戸端会議

### 楽しむ

- ・ お茶会（カフェ・サロン）運営
- ・ 麻雀 ・ 将棋 ・ 囲碁 ・ カラオケ
- ・ 健康体操 ・ 男の料理教室 ・ 手芸
- ・ かるた ・ マレットゴルフ ・ 吹き矢
- ・ 花壇づくり・「しゃべり場」

### 各種区民交流素材

### 学ぶ

- ・ 各種出前講座（市・県・大学）
- ・ 男の料理教室 ・ パソコン講座
- ・ 地元学教室 ・ 写真教室
- ・ 認知症予防について
- ・ あづみのフィルムアーカイブ
- ・ 血液元気、バランス食

### 子ども・子育て

- ・ 子ども食堂・しつけ
- ・ 持ち寄り図書館運営  
（児童書か成人と書まで）
- ・ 花壇づくり・体験農園

# 会員対象アンケート調査（平成31年度）

## 「細萱塾」活動意向アンケート調査

コロナ以前

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。  
活動にあたっては参加者のご希望にそった事業を展開したいと考えます。せつかくの機会でありますので以下にお答えください。

※ 該当することに○、その他自由筆記してください

- 当塾の活動を通じて知り合いたい人  
・話し相手（友人） ・趣味の仲間 ・学びの仲間  
（その他）

---
- 当塾の活動を通じて楽しく学びたいこと  
・各種出前講座（市・県・大学） ・認知症予防 ・写真教室 ・パソコン講座  
・地元学 ・麻雀 ・将棋 ・囲碁 ・カラオケ ・手芸 ・かるた  
・マレットゴルフ ・吹き矢 ・花壇づくり ・野菜づくり  
（その他）

---
- 当塾の活動を通じて体験したいこと  
・男の料理教室 ・健康体操 ・しゃべり場 ・蕎麦打ち ・郷土料理  
（その他）

---
- 当塾の活動を通じて役立てたい技術（スキル）、知識  
（得意なこと） ・盆栽技術 ・作物栽培 ・郷土食 ・写真撮影 ・魚釣り  
（その他）

---
- その他、当塾の活動を通じて実現したいこと  

---

氏 名

## 希望する効果

- |           |     |
|-----------|-----|
| ①趣味の仲間づくり | 12人 |
| ②学びの仲間づくり | 8人  |
| ③話し相手づくり  | 3人  |

## 希望の多かったイベント

- |         |    |
|---------|----|
| ①やさいづくり | 9人 |
| ②パソコン教室 | 8人 |
| ③地元学    | 7人 |
| ④健康体操   | 7人 |
| ⑤蕎麦打ち   | 7人 |
| ⑥男の料理教室 | 6人 |
| ⑦麻雀     | 5人 |
| ⑧しゃべり場  | 4人 |

ご協力ありがとうございました。

(令和元年度)

令和元年6.25 「細萱塾」設立会議 (名称、役員、規約等承認)

令和元年7.6 第1回細萱塾開催 (DVD「よみがえる安曇野」第1集) 開催

令和元年10.19 第2回「細萱塾 (健康づくり)」開催

令和元年11.30 第3回「細萱塾 (地元学)」開催

令和2年2.4 第4回細萱塾「男の料理教室」開催



(令和2年度)

健康づくり

体験

令和2年8月1日 第5回細萱塾「よみがえる安曇野第2集」鑑賞会開催

令和2年9月5日 第6回細萱塾開催「味噌と醤油と禅僧覚心」

令和2年10月3日 第7回細萱塾開催「秋のフルーツの音色」

令和2年11月7日 第8回細萱塾開催「飯沼正明飛行士の物語」 (14人)

地元学

音楽会

(令和3年度)

令和3年6月26日 会員限定「第9回細萱塾」開催

①安曇野市出前講座 地域づくり課  
そもそも「協働」ってなに？

②インターネット体験

令和3年11月26日 会員限定「第10回細萱塾」開催

秋の「パソコン・スマホを使った電子会議体験講座」

出前講座

学び





## 「細萱塾」 開設 趣意書

少子化、一人暮らし家庭の増加、地震をはじめとする自然災害の増加、財政難、経済格差社会の到来、介護世帯や空き家・荒廃地の増加等々、ここ細萱の地域も全国と共通するまたはそれ以上に困難なくつかの生活環境の変化が生じてきました。そしてこれらの課題は今後ますます深化するものと思われまます。将来を考えると不安に思う皆さんもいらっしゃるのではないのでしょうか。

住み慣れた細萱の地域で先代が培ったつながりを大切に、改めてお互いが日常の生活を通じて信頼を築き、子育て、健康づくり、痴呆予防生活はじめ生活支援のしくみをつくり、いつまでも安全と安心を共有し健康で心豊かな地域が実現することができたらありがたいと思います。公民館を利用して定期的に各種事業を展開し地域の皆さんの心豊かな交流の機会を提供することを通じて、**地域の教育力を向上させ地域の絆を深めるとともに健康長寿の実現と子育て環境の創出、生活文化の向上をはかります。**

そのために次のことを目標に地域住民を対象に「細萱塾」を開設し活動します。

- 1 細萱でよい文化をつくり共有すること  
ともに**楽しむ場をつくる**こと
- 2 細萱により**学びの場をつくる**こと  
地域で生きていくための知恵、身近な資源を生かすための技術の伝承と  
地域社会をともに支えるための学び
- 3 細萱により**仲間がいる**こと  
最も大切な隣人、友人

## 区長着任、そして生活支援体制整備事業の宿題

細萱塾事務局長の細川博水が令和4~5年度の細萱区長に選ばれた

(地域から選ばれた地域総代12名の互選による)

なお細萱の区長は3地区(細萱→新屋→細萱→殿村)で順番に選ばれる

安曇野市自治基本条例より

(区の役割)

第24条 **区は、支え合い及び助け合いを土台に地域課題を解決することにより、地域福祉の向上及び安全かつ安心な地域を創り出すよう努めるものとする**

令和3年度に前区長が市へ申請した**支え合い事業体制整備補助金**(公民館の机15脚の購入)について採択される。(事業費約40万円、補助率1/2)

補助金交付にあたり**高齢者サロンを向こう5年間にわたり6回/年以上開催**することを条件とされる。(申請にあたり「新しいプロジェクトを立ち上げ・・・実施する。」とされている。)

ハード事業(机の購入)にソフト事業(高齢者サロン)がついてきた。?  
区長着任早々の大仕事に「苦長」となった。

## 社協の「地区社協特別活動事業配分金」

(ソフト事業)

- ・ 交付限度額 50,000円 (交流・人づくり・・・)
- ・ 対象事業 高齢者、障がい者、子ども、ボランティア等の地区住民を対象とした交流会、福祉課題や福祉活動、福祉関連のテーマを通して交流を深め、住民同士の交流やふれあいを促進するもの
- ・ 対象経費 講師謝金、会場代、茶菓子代、消耗品、 等

みんなで楽しく交流することで必要な事業経費がいただける (10/10)

?

区の組織連携会議に市民活動団体やNPO等の意欲的に生きがいとして公益事業を担っていただいているアクティブな区民と責任感から役務としてご苦勞いただいている区・地区社協役員が協働 (交流) することにより質の高い事業にできないか

全員参加のまちづくりを目指して

組織連携会議が生み出す新しい協議体の可能性

担い手は区民 役員OBによる現役支援体制と中長期地域づくり企画

全員参加

## 区内市民活動団体の協力を要請

区の組織連携会議に従来の区役員、地区社協役員、地区公民館役員、消防分団、交通安全協会、子ども会育成会、PTA等に急遽区内の4市民活動団体（新屋和楽会、新屋太鼓保存会、細萱生き生き教室、細萱塾、NPOあんしん、生活支援コーディネーター等）を加え協力をお願いした。

（既存の連携会議に自主活動をしている意識の高い市民活動団体が加わった）

新しい「高齢者サロン」がいくつか企画されるとともに  
3地区各々で企画していたイベントが区全域を対象にしたイベントに拡大した。  
（交流の枠が広がり健康づくりや文化活動の活性化が計れた。）

最低6回/年以上の企画が8回/年の「高齢者サロン」として実現した。

(令和4年度)

- ①令和4年7月24日 区民支え合いマレットゴルフ (新屋和楽会企画)
- ②令和4年9月4日 飯沼飛行士記念館見学 (細萱地区公民館企画)
- ③令和4年9月17日 「洲波大社 (細萱神社を体験しよう)」 (細萱塾企画)
- ④令和4年10月16日 「フルーツとバイオリンのタベ」 (細萱塾企画)
- ⑤令和4年10月30日 出前講座「避難所運営ゲーム (HUG)」 (新屋地区公民館企画)
- ⑥令和4年11月6日 かんたん沈金体験してみませんか！ (新屋和楽会企画)



(意欲的に生きる人と交流し元気をいただく)

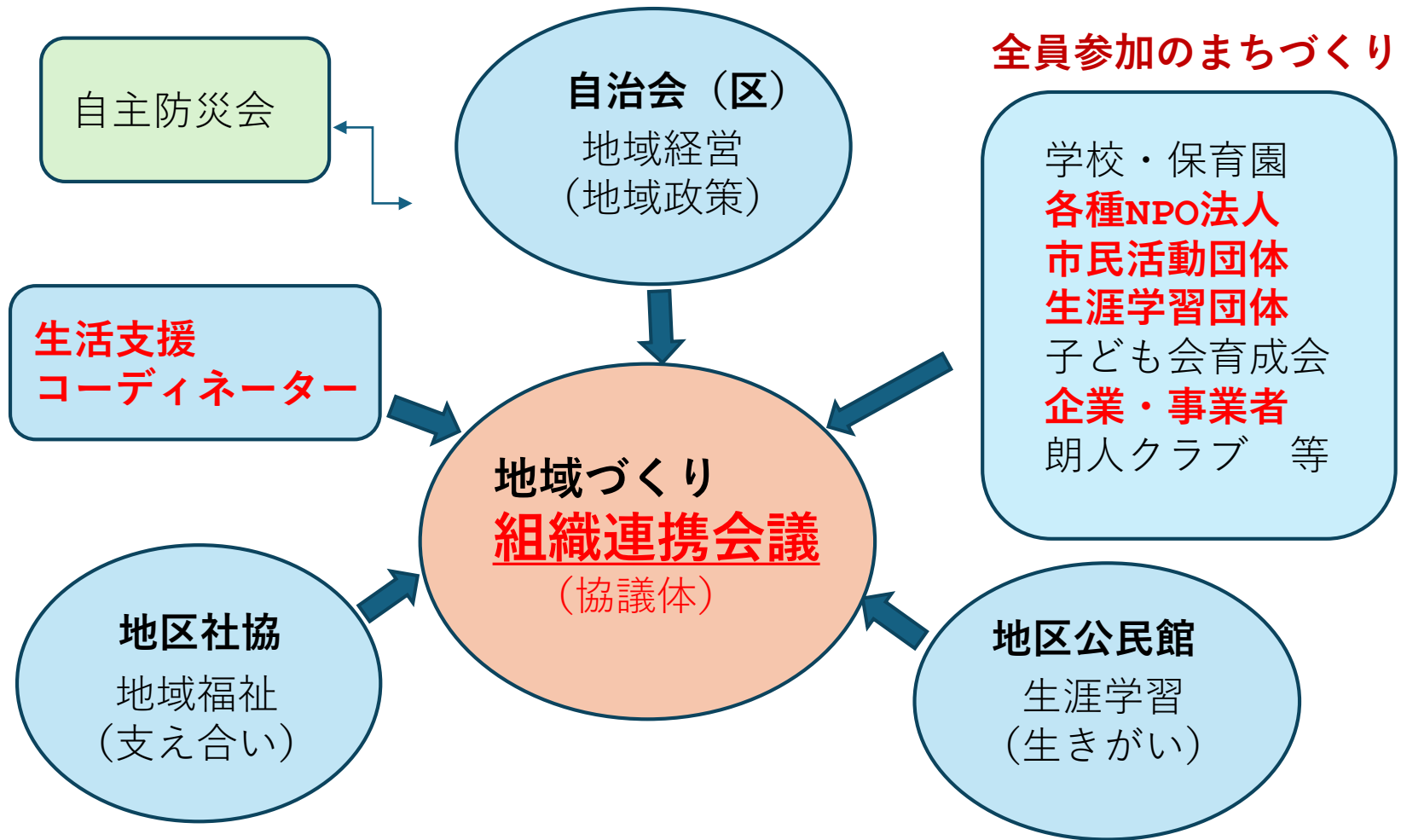
(令和5年度)

- ①令和5年10月9日 「フルーツとバイオリンのタベ」コンサート (細萱塾企画)
- ②令和5年11月11日 「特攻隊員上原良司の軌跡」講演会 (新屋和楽会企画)
- ③令和5年11月25日 「蕎麦打ち体験」体験会 (細萱塾企画)
- ④令和5年12月3日 「ヒンドゥー教神へ捧げる舞踏」公演会 (細萱塾企画)
- ⑤令和5年10月30日 「細萱区防災学習会」出前講座 (新屋和楽会企画)
- ⑥令和6年11月6日 「高齢者スマホ教室」 (新屋和楽会企画)



(高齢者が集い語るだけでは内向きになりがち、世代を超えて交流し元気をいただく)

## 地域は縦割りである必要はない



「地縁団体」 + 「課題別団体機関」 で地域課題を共有し  
より広くより深い活動 (事業) へ発展させたい。

# 活動の成果と今後

## (活動の成果)

- ・ 塾生が13名から30名へ増え交流に広がりが見られる
- ・ イベントの広報活動を通じて参加しないまでも地域のつながりが生まれた
- ・ 近隣の住人の趣向がうかがえ話題のきっかけが生まれた
- ・ 交流機会が新たな「顔の見える」関係として**社会参加の窓口**となった

## (今後の展望)

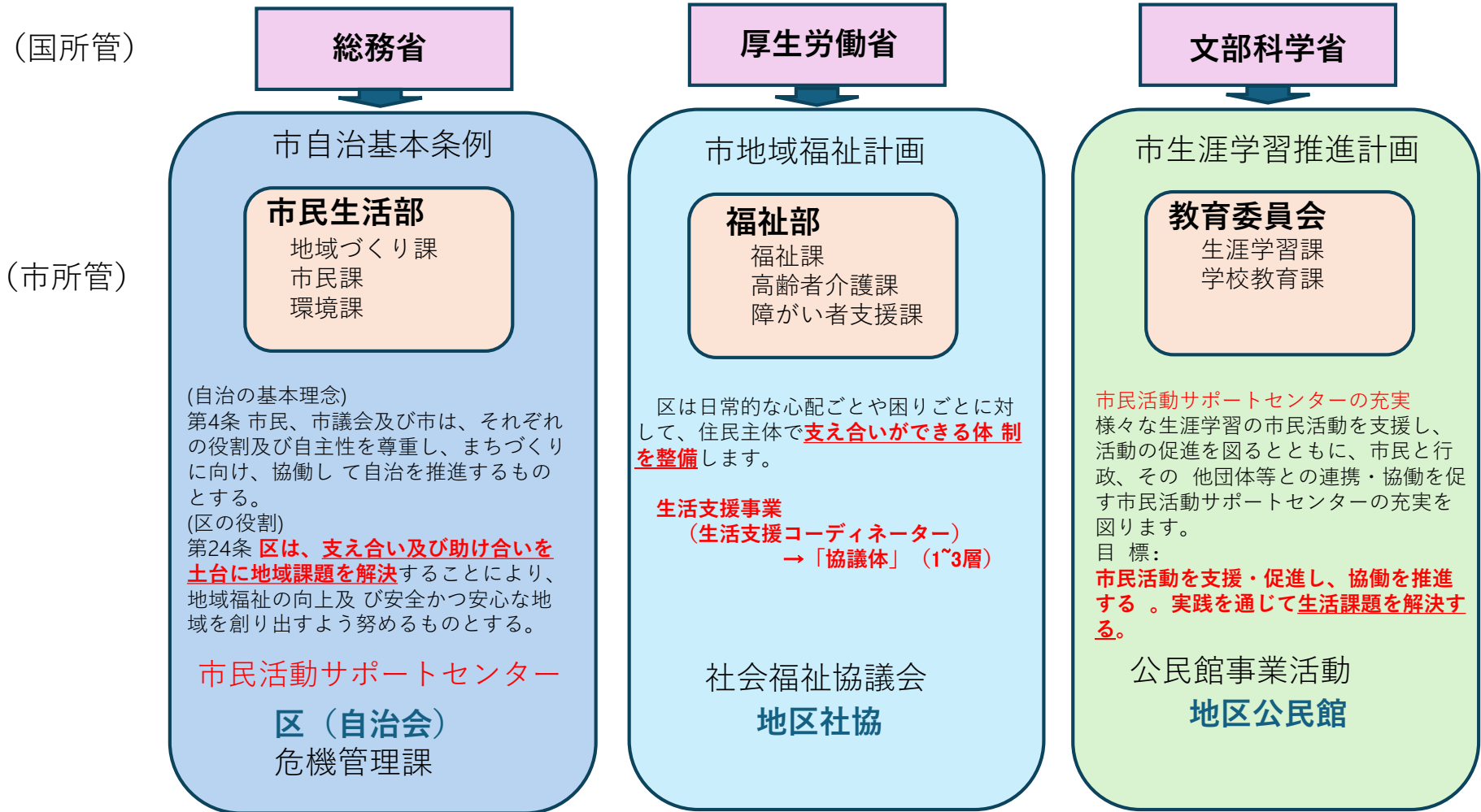
- ・ 随時アンケート調査を実施し希望に沿ったイベントを開催する
- ・ 地元区民による講演、出展、発表に重点を置く
- ・ イベント毎に世代、業種、趣向の異なる区民が参加することから「塾」が世代、業種等を超えたステーションとして
  - **分野を超えた企画をして区民交流の「たまり場」を担いたい**
- ・ 公民館役員が中心となって設立したが元議会議員、区長経験者はじめ地域に関わった人材のつながりができつつあることから、**現役の区関係事業の支援についても活動を通じて担っていききたい。**

(区役員、地区公民館役員ともに2年任期で全員交替することから地域づくりに関わる継続すべきさまざまな事業の中長期的企画や新しい事業が生まれにくい)



# 区民活動団体との協力連携

わかりにくい縦割り行政機構 行政内の連携が求められているのでは？



**区、地区社協、地区公民館は各々同じ理念を持つ自立した組織 → 「部制度」？**

おわりに

## 区内連携会議（協議体）の重要性

地域に張り巡らすネットワーク

- ・ 迫りつつある近未来社会  
男性の3人に1人が生涯未婚  
結婚した3組に1組が離婚  
2035年、東京は高齢者の4割以上が「一人暮らし」になる
- ・ 細萱区は3公民館で活動が広がったが、**地域の市民活動団体やNPO、又は企業とも共催の輪を広げる**ことでコロナ禍や高齢化で縮小していく活動を再活性化する機会になるのではないか
- ・ 「**楽しくなければまちづくりでない**」（学び→体験→実践→創造）自己実現
- ・ 「環境の中に生きる」人生から「環境を創造する人生」へ
- ・ **参加から参画へ、そして協働へ。** その先に必要なコミュニティビジネスはあるか？  
「たたずむ生活からアクティブな生活へ」

ご静聴ありがとうございました



